

平成 27 年度 錦田小学校区 第 2 回地域コミュニティ連絡会まとめ

開催日	平成 27 年 10 月 30 日 (金)	会場	錦田公民館
-----	-----------------------	----	-------

ご参加ありがとうございました。



【当日参加団体一覧】

団体名		
松が丘自治会	谷田城の内自治会	谷田自治会
シャリエ三島松が丘自治会	東富士見自治会	押切町内会
御門自治会	桜ヶ丘町内会	並木自治会
夏梅木町内会	錦田地区地域包括支援センター	錦田保育園
錦田幼稚園	私立桜ヶ丘幼稚園	民生委員・児童委員
環境美化推進委員会	恵明保育園	恵明コスモス保育園
子ども会連合会	保健委員会	錦田小学校、PTA
錦田小学校支援地域本部	錦田中、PTA	

※当日参加者 28 名

【地域の情報交換】

～各団体より校区の皆さんへ、情報提供&ご協力をお願い～

- 三島市子ども会連合会：1 月「子どもフェスティバル」開催。錦田学区は市子連に入っていない。親、自治会、PTA、子ども会役員のご協力を得て、復活させてほしい。
- 錦田保育園：3/3(木)「ひな祭りお茶会」開催、未入园児、老人会の参加可能(要事前連絡)。一時預かり保育、園庭解放(同年齢の子と遊ぶ場)を実施中。お手玉歌、お手玉遊びを教えてください方を募集中、ぜひご紹介ください。
- 保護司会：7 月「社会を明るくする運動ミニ集会」を実施。小学校区で毎年、会の活動、小中学校の状況、地域の問題点について話し合うミニ集会を開催している。

<会場アンケート>

話し合いたいテーマについて、参加者の意向を伺いました。



【テーマ別会議】

会場アンケートの結果	
①地域で子ども会をサポートする具体的な取り組みを考えよう！	9人
②災害弱者の支援体制づくりを実践しよう！	8人
③地域で活動している団体同士をつなぐ場を作ろう！	7人
④その他	1人

※アンケートの結果、①と②に分かれ話し合いました。

テーマ別会議①：「地域で子ども会をサポートする具体的な取り組みを考えよう！」

現状・課題	解決策	取り組みそうなこと（案）
<p>●子ども会の会員数の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員が全員ではない。来年はなくなりそう ・子ども会参加 10%以下（子は 100 人以上／加入は 9 人のみ） ・自治会が口を出すべきか？ 	<p>●子ども会は地域文化の担い手</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事 文化・継承 ・人と人のつながりの大切さを伝える ・錦田は昔から相撲が有名（中学校に土俵あり） 	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りが無い。祭りをやろう ・「地域」のよりどころになるような活動
<p>●<子ども会に入らない理由①>親の負担が大きい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市子連に入らない理由は親の負担 ・役員をやると親が大変になる⇒親が入会させない ・組織があると何か活動しなければならない（調整の困難性） ・何度も話し合いはしている ・会員の中で残った人、新規の人がすぐに役を果たすことになる ・そもそも市子連を知らないかも ・5、6年生の親⇒役員に強制。4年生でやめる ・イベントを企画しなければいけない役員へのプレッシャー 	<p>●子ども会の必要性への親の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市子連に入らない子ども会長等に聞く ・現状の活動内容を親子で理解する ・地域で子どもを育てる意味を知らせる ・働く母親が増える中で子どもが安心して過ごせる場を子ども会にする 	<p>●活動の良さを伝える（いつの時点で？）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な宣伝（どのように宣伝？） <p>●防災・防犯面で近所同士のつながり重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体験やつながりだけでなく、隣近所の親同士が知り合いになっておくことが子どもの命を守る力になると思う
<p>●<子ども会に入らない理由②>他の活動が忙しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団を優先させている ・個人主義、スポーツ少年団、習い事、子どもが忙しい 	<p>●子どもが主体的に活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにやりたいことをやらせる ・魅力がない（ゲーム機以上の魅力を作る） ・子ども会は失敗しても良い場 ・大人と子どもと一緒に楽しく ・大人の楽しんでいる姿を見せる（祭り等） ・親が回しすぎない方が子どもは楽しそう ・様々な体験をできるようにしたい ・子どもたちの遊ぶ姿や楽しむ姿などを見せる ・子どもの主体性を大切に活動計画 ・PTA 組織の中に入れる 	<p>●紹介できる場（集まれる場）が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずはコミュニケーション ・子ども会を作るプロデューサーを雇う ・主体的にできるようアドバイザー配置 ・地域にいる元教師に運営をお願いする ・ジュニアリーダーが小学生を指導する <p>●責任の所在ははっきりさせることも大事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもだけで活動できるシステムを作る（子どもが安全に集まれる場所等）
<p>●地域によって状況が違う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校区とはいえ、たくさんの自治会、町内会があり、それぞれ事情が異なる（在籍児童数から差） ・多くの人の意見を聞いてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会の取組を幼保小でも（連動） 	<ul style="list-style-type: none"> ・三島市の 1 人当たりのごみ排出量が多い ⇒資源回収を学びの機会に
<p>●幼児の親はつながりを求めている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保学「人とのつながりの大切さ」を教育 ・子どもたちのつながりが無くなりつつある 		

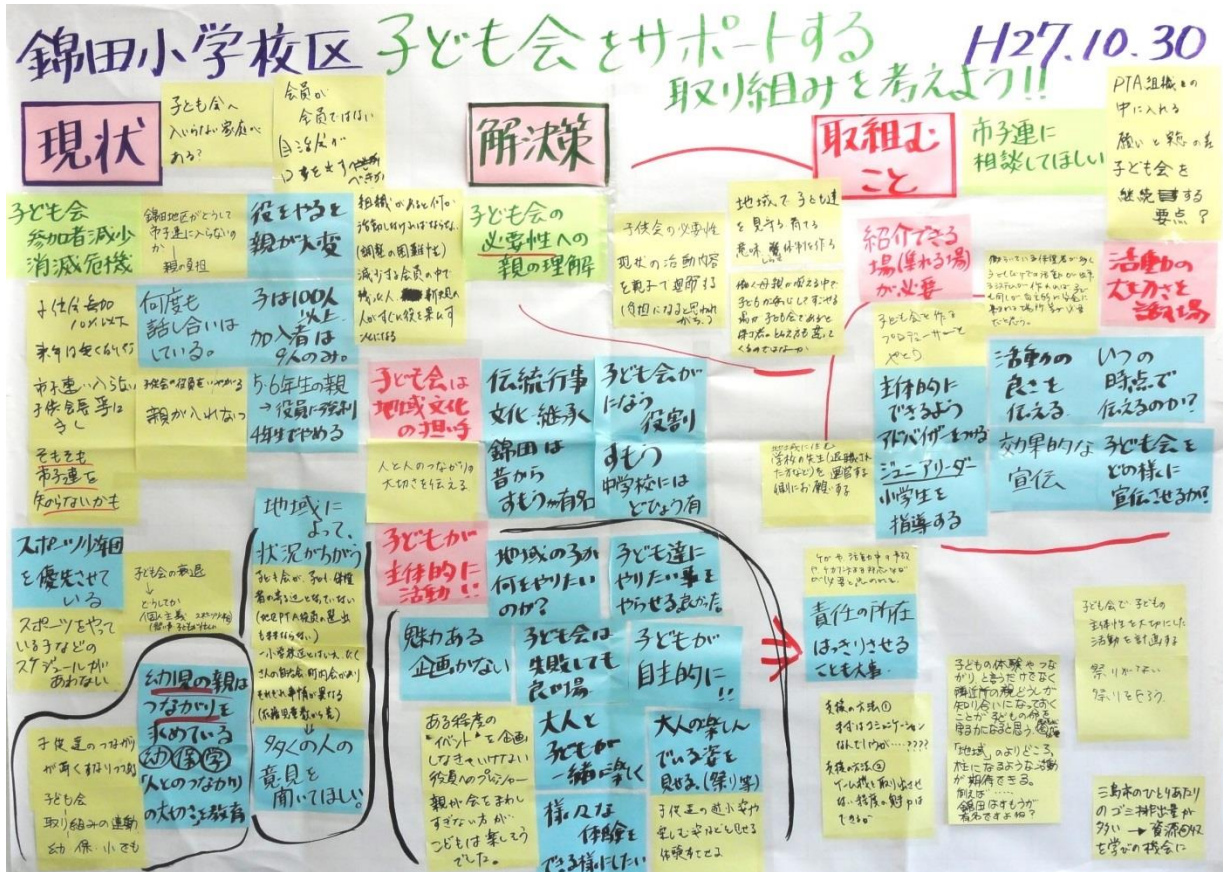
※下線部は、平成 27 年度第 1 回連絡会における意見

テーマ別会議②：「災害弱者の支援体制づくりを実践しよう！」

現状・課題	解決策	取り組みそうなこと（案）
<p>●災害弱者は時間帯等によって異なる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がい者だけでない （例：平日昼間ならば家に誰もいない子どもも弱者） ・時間帯・曜日など状況によって弱者は異なる 	<p>●名簿に頼りすぎない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名簿が全てではない ・要介護者名簿のひな型が必要 ・名簿フォーマットを工夫する ・町内会未加入のアパート等の名簿が作成できない 	<p>●災害弱者の定義の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要支援者名簿に載っている人が全ての弱者ではない ・名簿以外にも弱者になる可能性ある！ ・災害弱者の定義を見直さないといけない
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進み、町内会活動が停滞している ・平日の昼間は人が限られる ・用具はあるが高齢者は使えない ・月 1 回集まって話し合いや訓練を実施している 	<p>●弱者を減らす（高齢者を弱者にしないための予防）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロンを通じて高齢者の防災訓練を行う ・元気な高齢者を増やす ・高齢者の食事会・体操 ・高齢者はとにかく自分の好きなことを生き甲斐にして生活して欲しい。老化防止に役立つ <p>●黄色いハンカチの問題（万能ではない）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黄色いハンカチは、町内の人には配布済みだがアパートには未配布 ・黄色いハンカチを過信しない ・非協力的な人との話し合いを進めようとしている 	<p>●中高生活躍するまでのあらしを作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生や高校生を取り込む（参加） ・中高生が活動するために普段からの準備が大切 ・責任の所在や役割分担（中学生、大人）を明確にしないとけない
<p>●個人情報の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要支援者の個人情報の問題 ・<u>防災名簿に非協力的な人がいる</u> ・災害時や体調不良など、高齢者が異常を外部に知らせる方法に不備あり <p>●役員の引継ぎが課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員の引継ぎが課題になっている（任期 1 年が多い） 	<p>●コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（組内）向こう三軒両隣で支援体制を考えていただくことを基本にしている（プライバシーを考慮する） ・サロンでコミュニケーションをとる <p>●組・近所対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組単位で支援者を決めておく ・各組に 2～3 名の防災リーダー ・要支援者には組ごとに援助依頼 	<p>●民生委員と連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員との連携協力関係の強化（現在はほとんどなし） ・組長と民生委員の連携が必要 ・包括支援センターでも災害弱者となりそうな高齢者を把握する ・民生委員と包括は連携している

※下線部は、平成 27 年度第 1 回連絡会における意見

テーマ別会議①：「地域で子ども会をサポートする具体的な取り組みを考えよう！」



テーマ別会議②：「災害弱者の支援体制づくりを実践しよう！」

